



認知症になっても住み慣れた地域で 安心して暮らしていくために



認知症は、誰にでも起こりうるとても身近な脳の病気です。認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしく過ごせるよう、本市では、高齢者を地域全体で見守り、緊急時や異変に気付いた時に早期に対応できるようにするため、次の二つの事業を実施しています。

☎長寿課 ☎22-1361 地域包括支援センター ☎22-1466

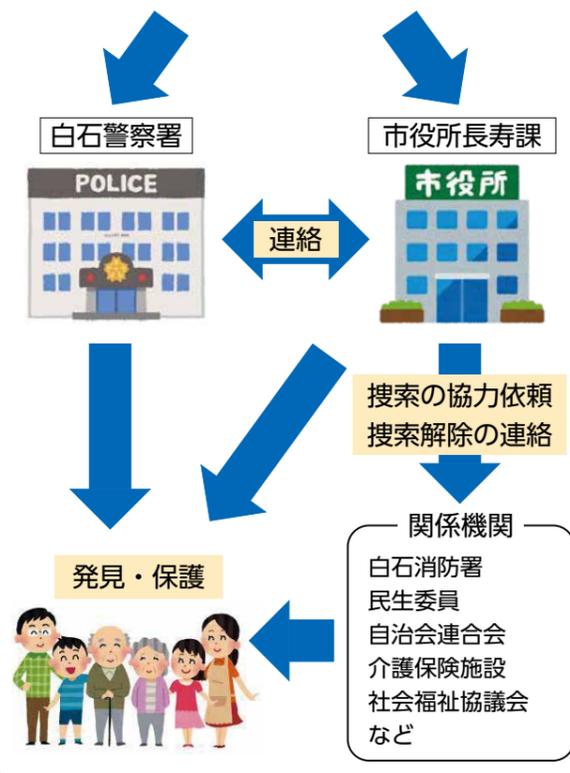
白石市高齢者等SOSネットワーク事業

認知症などの病気により高齢者などが行方不明になったときに、警察署と連携し、地域の方々や市内事業所などの協力を得ながら、早期発見・保護に努め、高齢者の安全確保と家族などへの支援を図る事業です。

※行方不明になった時に迅速に対応できるように、事前に高齢者の名前や特徴・写真などの情報の登録をお願いします。

SOSネットワークのしくみ

いなくなったと気づいたら、できるだけ早く白石警察署または長寿課へ連絡します。



白石市認知症高齢者等見守りQRコード活用事業

徘徊する高齢者などが保護されたとき、身元を早期に特定する事業です。

●利用料 年間1,100円

①様子が気になる方を見かけたら、「どうされましたか？」と優しく声をかけてみましょう。



②その方の靴や衣服、持ち物などに次のQRコードが付いていたら、携帯やスマートフォンで読み取ってください。



下記へご連絡願います
アイネット(株)
電話：0120-00-0000
番号：009-000-000-0

※この番号はテスト用です。

③携帯端末の画面に表示されるコールセンターに連絡して情報をお伝えください。
※または、警察署に連絡して高齢者の保護を依頼してください。

QRコードをつけた方を見かけました。番号は009-000-000-0です。

わかりました。すぐ家族へ連絡します。

④コールセンターが、事前に登録されている家族などへ連絡します。

市では、昭和60年に第一次行財政改革大綱を策定以来、計画的な行財政改革に取り組んでいます。現在は、平成30年12月に「白石市行財政改革推進計画（集中改革プラン）【第四次改訂版】」を策定し、令和元年度から3年度までの3カ年を計画期間として、積極的な行財政改革を推進しています。

「白石市総合計画」の施策の着実な実行を図り、本市の持続的発展へ向けた取り組みを加速させるため、今後も財政の健全性を確保しながら、効率的で質の高い行政サービスの提供に努めます。

質の高い行政サービス
= 健全財政 × 行財政改革

令和元年度の主な取組実績

■ 継続的で開かれた行政運営の推進

- ・こじゅうろうキッズランドにおける指定管理者制度の導入
- ・深谷保育園に替わる認可保育園の設置・運営事業者を決定



▲指定管理者制度で運営するこじゅうろうキッズランド

■ 安定的な財政基盤の確立

- ・ふるさと納税寄付金の増収に向けた取組強化
- ・市税などの収納率向上

■ 機能的な組織機構の整備

- ・市職員定員の適正管理
(職員数を平成29年度と比較して6人削減)

令和2年度の主な取組計画

■ 継続的で開かれた行政運営の推進

- ・地方創生関連施設などの指定管理者導入推進
- ・さまざまな収納の機会の提供



▲ふるさと納税で寄せられた寄付は、企業立地奨励金、子ども医療費の助成などに活用！

■ 安定的な財政基盤の確立

- ・ふるさと納税のさらなる推進
- ・地球温暖化対策実行計画の積極的推進

■ 機能的な組織機構の整備

- ・子育て世代包括支援センターの開設準備

■ 取組目標額・実績額(平成29年度基準)

年度	目標額	効果額
令和元年度	4億 797万円	9億6,498万円
令和2年度	4億8,047万円	—
令和3年度	5億6,650万円	—

効率的で質の高い行政サービスを提供するために
白石市行財政改革推進計画（集中改革プラン）の取り組み状況

☎行政改革推進室

☎22-1561